

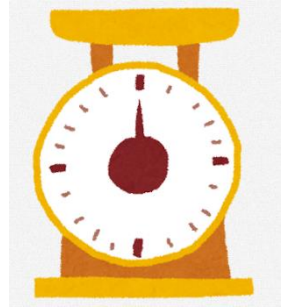
飼料添加物の給与量に注意しましょう

飼料に微量ミネラルやビタミンなどを添加する方も多いと思います。

給与量を間違えると事故につながりますので注意しましょう。

ミネラルやビタミンをあげると成長がよくなると聞いたけど？

微量ミネラルやビタミンは、不足すると欠乏症となり、多く給与すると過剰症（中毒）を引き起こすことがあるため、適正な量を給与することが大切です。えさの種類などによっては、カルシウム、銅、亜鉛などの無機物（ミネラル）やビタミンの一部が不足している場合もあります。しかし、購入した飼料には調製されているものも多くありますので、成分を確認しましょう。



どんな症状が出るの？

原因物質によりいろいろな症状があり、共通した症状はありません。同じ餌を食べている個体であっても、食べている量や選び食べをしているもので個々に症状が異なったりします。また、非常に多くの量が一度に体内に入ってしまう急激に症状が出る場合（急性中毒）と、急性中毒を起こすよりは少ない量を給与し続けたためにゆっくりと症状がでる場合（慢性中毒）があります。

どうしたら事故を防ぐことができますか？

大きく3つのポイントがあります。

- 1) 飼料添加物を使用する前に獣医師や飼料を購入した販売店の方によく相談しましょう。
使ってもよい量を確認してから使うことが大切です。
- 2) きちんと量を測って投与する。
目分量はやめましょう。できる限り、はかりを使用しましょう。
スプーンや計量カップを使う場合は、すり切りで何杯かを決めるようにしましょう。
- 3) 飼料の中にはもともとミネラルやビタミンが入っています。使っている飼料にどんな成分が足りないかを確認し、足りないものを補っていくことが必要です。自家配合飼料の場合は、特に注意しましょう。



中毒が疑われる場合は、担当獣医師と相談の上、病性鑑定を御相談ください。その際は、飼料の分析をすると原因物質の特定に近づくことができますので、お問い合わせください。

栃木県県北家畜保健衛生所

TEL 0287 - 36 - 0314 、 FAX 0287 - 37 - 4825